

温泉発見伝説と動物
—岐阜県下呂温泉の三つの祭りと伝説—

菱川 晶子

1. 先行研究と本研究の立場

世界の中でも有数の温泉国である我が国では、多くの温泉地に温泉が発見された経緯や由来にまつわる伝説が伝えられている。この温泉発見伝説は民俗学でも早くから注目を集め、最も早いものでは高木敏雄が『日本伝説集』の「縁起伝説」に取り上げている。また柳田國男も『山島民譚集』や『日本伝説名彙』などで動物名の付いた温泉とその由来について記し、白鷺や鹿等は古来霊物であり、神主や僧侶が発見者の場合には、それらの動物が土地の神仏の使者伝令とされるのは当然のことだと述べている。

一方、『温泉大鑑』⁽⁴⁾の中で「温泉の信仰と伝説」を記した宗教学の加藤玄智と宮坂光次は、「発見伝説」を詳細に七分類した。すなわち「猟師・樵夫・亡命者等によって発見された温泉」、「鳥獣に教えられて発見した温泉」、「神仏に導かれて発見した温泉」、「高僧に発見された温泉」、「偉人に発見開湯された温泉」、「山姥・天狗等変化物の湯」、「温泉の冷却と移動に関する伝説」である。そして「鳥獣に教えられて発見した温泉」では、鳥獣等にも、自然泉や温泉をめがけて集まり、好んでこれに浴する風習のあることは、まぎれのない事実であると述べ、信心深い昔の人はそれを鳥獣の習性とは考えずに神仏の使者や化現と考えたと指摘している。

この動物の習性についての指摘に通じるのが、温泉医学の見地による甘露寺泰雄等の研究⁽⁵⁾である。すなわち、動物の生活や慣習は温泉の泉質と関係しており、動物発見を説く温泉には塩類泉が最も多くみられるというものである。これらを鑑みると、温泉地における動物の行動を神仏と結びつけて理解しようとする働きにこそ、人間らしさを読み取ることができそうだ。

その後も山口貞夫の四分分類⁽⁶⁾を始め、いくつかの分類案が示されているが、それらには共通して「動物が教えた」、あるいは「導いた」とするものが必ずみられることから、動物の関わる伝説が温泉発見伝説の中でも重要な位置を占めているとみて間違いはないだろう。発表者はこの温泉発見伝説と動物との関係のみていくことで、動物に対する人々の思考の歴史の一端が明らかになると考えている。

発表者がこれまでに確認した伝説の中には、一つの温泉地で複数の異なる伝説が語られている場合があった。また長野県の鹿教湯温泉のように、現在人々に親しまれている温泉名が後の時代の改称によるものであり、それに伴って伝説が新たに生成されていることもあった⁽⁷⁾。一方で、今の温泉名の他に伝説にちなんだ別の名称が古くは存在したという例も少なくない。動物名を冠する温泉へ、あるいは逆に動物名を伴わない温泉へと、温泉の名称もそれぞれの地域の歴史や事情によって揺れ動いているようだ。

自然からの恩恵である温泉を享受するため、これまでに多くの浴場が開かれてきた。人々は、大地の恵みであるが故に湯の枯渇を恐れ、また利用者の増減に影響を受けながらも、営みを続けている。そのような温泉地の様相は発見伝説にも大きく関わるものであり、温泉地毎の個別の分析が肝要となる。

本発表では、数年来調査を進めてきた岐阜県下呂市にある下呂温泉を取り上げたい。下呂温泉は飛騨の中でも南部に位置し、その中心にある湯之島は益田街道沿いにある宿場の一つだった。河原で傷を癒す白鷺によって温泉のありかを知ったという伝説は、今も町の随所にそれを感じさせる形で表されている。そして伝説にちなんだ祭りが人々の手によって伝えられ、また新たに生み出されている様を明らかにしていきたい。

- (1). 高木敏雄『日本伝説集』郷土研究社1913年。後に宝文館出版（山田野理夫編1990年）等からも復刻版が刊行されている。
- (2). 柳田國男『山島民譚集』甲寅叢書刊行所1914年。後に『柳田國男全集』第二卷（筑摩書房1997年）等に収録。
- (3). 柳田國男『日本伝説名彙』（日本放送協会編・日本放送出版会1950年）。
- (4). 日本温泉協会編・刊『温泉大鑑』1935年。後に解題改訂版の『日本温泉大鑑』（博文館1941年）が出されている。
- (5). 甘露寺泰雄「動物の発見伝説に係る温泉の泉質—既存文献と河野調査データの解析を通しての考察—」（『温泉地域研究』18日本温泉地域学会2012年）。他に、藤浪剛一「温泉の発見と伝説」（『温泉知識』丸善1938年）や河野忠「温泉発見・開湯伝説から見た泉質と効能に関する予察的研究」（「大分県温泉調査研究会報告」58大分県温泉調査研究会2007年）等が挙げられる。
- (6). 山口貞夫「温泉発見の伝説」（『旅と伝説』10-111937年）。
- (7). 菱川晶子「温泉発見伝説と動物—長野県上田市鹿教湯伝説の場合」（『愛知大学総合郷土研究所紀要』第60輯2015年）。

2. 下呂温泉—歴史と温泉発見伝説— → 地図

アルカリ性単純温泉

温泉の発見・・・延暦年中（901～923）とも天曆年中（947～957）とも

湯島 湯之島

下留郷（しものとまりごう）

日本三名泉（万里集九・林羅山）

「湯文之事」（医王山温泉寺蔵）

「飛州下呂温泉略縁記」（医王山温泉寺蔵）他

3. 温泉に関わる祭りの変遷 → 表

温泉に関わる二つの祭り—温泉感謝祭と下呂温泉神社例祭—

祭りの変遷と白鷺の登場

4. 伝説にちなむ他の祭り

椀貸し伝説と龍神火祭り

歌塚伝説と歌塚供養祭

5. まとめ

下呂温泉の歩みと伝説の取り込み

白鷺への人々の意識やイメージ

全国の白鷺に関わる温泉